くまもとＳＤＧｓアワード2026

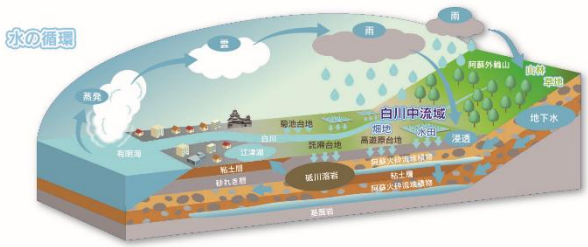
白川中流域土地改良区協議会

水循環型営農推進運動（白川中流域の水田が、熊本地域の地下水を育みます！）

【取り組み内容】

「水循環型営農推進運動」
「普及啓発と地域連携（次世代と世界へ）」











評価項目ごとの取り組みの特徴・ポイント	
普遍性	白川中流域の水田は熊本の地下水の約15%を育てる重要地域で、阿蘇火砕流の仕組みによる「ザル田」を活かした湛水事業は世界でも希少な地下水涵養のしくみである。
包摂性	行政をまたぐ地域が連携し、湛水事業へ参加、協力できる体制を確立。田んぼの学校などを通し、地元や都市部の親子、高校生など広く体験を通して白川中流域の農業、熊本地域の地下水への理解を深めてもらう取組みを行っている。
協働性	平成15年以降、企業、行政と様々な課題を乗り越えながら協定を重ね継続されている。企業、農家、行政、土地改良区が連携して湛水事業へ取組み、地域の地下水涵養へ貢献するモデルを構築。
統合性	湛水は地下水涵養に加え、病虫害抑制や地力向上など営農効果も持ち、地下水保全と農業振興を両立する持続可能な地域モデルとして機能する。
透明性	湛水面積や推定地下水涵養量を毎年ホームページ等で公表している。研究機関等で実施地区の土壌分析や減水深調査、涵養量調査を行い、検証を続け事業の透明性を確保している。

貢献するＳＤＧｓのゴール

